

バイオ甲子園2020・論文大会

審査結果発表

投稿論文41報の中から厳正な審査の結果、入賞論文12報を選考しました。
投稿ありがとうございました。

最優秀論文賞

熊本県立済々黌高等学校
生物部 ウニ班

「放射相称であるウニ類の体に
方向性があった」



優秀論文賞

広島県立西条農業高等学校生物工学科 細菌班

「環境中の細菌により放出される気体状の植物生育促進物質」

鹿児島県立曾於高等学校 科学部

「カマキリの体内に潜む寄生虫について
～ハリガネムシの形態を決定する要因の解明～」

東明館高等学校 サイエンス部バイオ班

「孢子接合法を用いた新しいパン酵母の育種」



入賞論文

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校
生物部

「オオイタサンショウウオの繁殖と保護を目指して」

福岡県立東筑高等学校
生物部(2年)

「コオロギの学習に関する研究
ーコオロギは他人のふり見て我がふり直す！ー」

鹿児島県立市来農芸高等学校
養鶏研究班

「平飼いのニワトリはいつ、どこで何をしているのか？
ストレスフリーへの挑戦 ～産卵鶏の行動様式の研究～」

鹿児島県霧島市立国分中央高等学校
園芸工学科 3年 野菜班

「国分だいこんの復活」

鹿児島県立国分高等学校
サイエンス部 カブトムシ班

「オキナワカブトを守れ！
～ヤマトカブトとオキナワカブトの亜種間雑種に関する研究～」

群馬県立利根実業高等学校
生物生産科生物資源研究部

「イノシシの青色資材に対する反応と侵入防護に関する研究」

大阪府立園芸高等学校フラワーファクトリ
科園芸デザイン部(ハニービーサイエンスクラブ)

「ミツバチの利用植物より周辺環境を調べる
ー電子顕微鏡を利用したミツバチ花粉荷(花粉団子)の分析ー」

宮崎県立宮崎北高等学校 サイエンス科

「種菌の獲得と生長
～カンゾウタケの子実体栽培を目指して～」

バイオ甲子園 2020・論文大会総評

第29回目となるバイオ甲子園は、コロナ禍のため口頭発表は行わず、論文大会の形式で開催致しました。自由に研究や調査ができない環境の中でも、高校生の皆さんや指導される先生方の研究に対する情熱は冷めることがなかったようで、例年を大いに上回る41報の論文が「バイオ甲子園 2020・論文大会」に投稿されました。南は沖縄から北は新潟や群馬からの応募もありました。

いずれの論文も優れた研究内容で研究分野も多岐にわたっているため入賞論文12報を選出する審査は大変難航しました。さらに厳正なる審査を行い入賞論文の中から最優秀論文賞1報、優秀論文賞3報を選出しました。

【最優秀論文賞】

- 「放射相称であるウニ類の体に方向性があった」

熊本県立済々黌高等学校 生物部 ウニ班

ムラサキウニなど数種のウニを用いた方向性に関する研究は非常に興味深いものでした。ムラサキウニでは91セット1456回に及ぶ多くの実験を行い詳細なデータを取っており、高く評価されました。

【優秀論文賞】

- 「環境中の細菌により放出される気体状の植物生育促進物質」

広島県立西条農業高等学校 生物工学科 細菌班

牛糞堆肥や海藻から分離した菌が、植物生育促進物質をつくることは大変興味深く、環境問題にも関連する重要な研究であり評価されました。

- 「カマキリの体内に潜む寄生虫について ～ハリガネムシの形態を決定する要因の解明～」

鹿児島県立曾於高等学校 科学部

身近なカマキリに寄生するハリガネムシについて調べ、系統樹まで作成した詳細な研究が評価されました。

- 「孢子接合法を用いた新しいパン酵母の育種」 東明館高等学校 サイエンス部バイオ班

孢子接合法を用いてバラの香りをつくる酵母を育種したことは素晴らしいと高い評価を得ました。ユニークなパンができることを祈念します。

将来、高校生の皆さんが企業、教育機関、研究機関で、特にバイオテクノロジーの分野で大活躍されることを心より祈念いたします。

バイオテクノロジー研究推進会 会長 寺本祐司